

平成27年度事業報告書

平成27年4月1日～平成28年3月31日

公益財団法人 全国青少年教化協議会

事業報告目次

I 教化事業（公益目的事業1）

- 1 青少年健全育成推進事業 P. 1～P. 3
- 2 公益活動推進事業 P. 4～P. 6
- 3 臨床仏教研究所運営事業 P. 6～P. 8
- 4 出版事業 P. 8～P. 9

II 表彰事業（公益目的事業2） P. 9～P. 10

III 災害支援事業（公益目的事業3） P. 10～P. 11

IV 管理 P. 11

事業報告書付属明細書 P. 12

平成27年度事業報告

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

I 教化事業（公益目的事業1）

仏教精神に基づき青少幼年をはじめとするすべての人々の心身と人格の健全な向上を図る事業

1 青少年健全育成推進事業

(1) 仏教子ども会活動の推進事業

①花まつり行事の推進、助成

加盟教団及び府県地区青少年教化協議会（略称・青少協）に対して、花まつり行事の推進を図った。

②成道会全国こども大会の開催推進

平成27年12月8日前後の日曜日を中心に全国約50会場で開催した。

※参加者＝約10,000名（うち児童約6,000名）

※行事＝記念式典（法要・法話等）、お楽しみ会（童話、ゲーム、映画、パネルシアター、紙芝居、人形劇）等多彩な行事が各地で開催された。

※教材助成＝成道会用リーフレット（B6判、多色刷り）、成道会ポスター（A2判、多色刷り）、シャープペンシル（読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社からの助成品）を送付、各開催会場の責任者から参加児童に手渡された。

※後援＝読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社

(2) 青少年教化研修会等の開催事業

①平成27年度指導者研修会「お寺deバルーンアート」開催

※日時＝平成28年3月8日（火）

※会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※講師＝吉水 岳彦氏（大正大学非常勤講師・臨床仏教研究所研究員）

※目的＝「子どもたちを笑顔にしよう！」をテーマにバルーンの基礎を学びながら、コミュニケーション力の向上を図った。

②公開講座「子ども若者のためのオンライン相談～イギリスの実践に学ぶ～」開催

※日時＝平成28年1月16日（土）・17日（日）

※会場＝東京都新宿区・早稲田大学 戸山キャンパス

※講師＝コーマック・ノーラン氏（チャイルドラインUK オンライン相談スーパーバイザー）

※目的＝近年、SNS等のインターネットによるコミュニケーションが子どもたちの生活に深く浸透している。そこで、オンラインでの相談を求める声が多く届いていることから、日本でもオンライン相談の窓口を広めていくために、イギリスで行われている実践からオンライン相談の現状と、窓口を開設するために必要な体制やトレーニング方法について学んだ。

※共催＝NPO法人チャイルドライン支援センター

(3) 青少幼年支援ネットワーク拡充事業

①青少幼年教化活動の調査・情報収集及び発信とNPO（市民団体）との活動連携

- 1) 青少幼年教化活動者の活動内容の調査、情報収集
日曜学校等、青少年教化活動を行っている寺院の活動状況を聞き取り調査をした。
- 2) 青少幼年を対象にした活動及び研究に関する情報収集
青少幼年問題に関する情報を広く収集するとともに、他団体が主催する青少幼年関係の研修会等にも参加し、その活動内容を把握した。又、加盟教団等の不登校・ひきこもり関連団体に関する情報収集を行った。
- 3) 仏教団体、仏教系大学サークルの情報収集と活動の連携
青少幼年に関する活動を行っている仏教団体、仏教系大学の児童研究会等と連絡を取り、情報交換を行い、連携事業の展開に向けて検討を行った。
- 4) 子ども支援系NPO等との情報交換及び活動の連携
「認定非営利活動法人チャイルドライン支援センター」「公益社団法人シャンティ国際ボランティア会」をはじめ、青少幼年の健全育成や子育て支援について活動を行っているNPO、NGO、社会福祉協議会等との情報交換を促進し、活動の連携を行った。

②府県・地区青少年教化協議会及び活動寺院・団体等との活動連携

- 1) 「府県・地区青少年教化協議会代表者会議」の開催
本会と青少協との情報交換、教化活動の推進を図るため、代表者会議を開催した。
※日 時＝平成27年6月18日（木）
※会 場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）
※テーマ＝「各青少協の活動報告、今後の各青少協の活動とあり方について」
- 2) 活動協賛
第11回「ほとけさまの絵コンクール」の後援及び協賛
大阪青少年教化協議会が主催する「ほとけさまの絵コンクール」を後援し、併せて協賛した。
※公募期間＝平成27年12月～28年2月
※応募総数＝約500点
※選考委員＝久保田 聖淳氏他
※入 賞＝最優秀賞他13点
※主 催＝大阪市仏教会／大阪青少年教化協議会
※後 援＝全国青少年教化協議会他
- 3) よみうりランド仏舎利法要開催への協力
協力企業の株式会社よみうりランドが主催して毎年開催されている「仏舎利法要」に対して、役職員等が出仕し、同聖地公園にて法要を執り行った。
※日 時＝平成27年5月21日（木）
※会 場＝よみうりランド聖地公園（東京都稲城市）

③加盟教団等との活動提携、連携

加盟教団等からの要請に応じて講師を派遣し、講演・ワークショップを行った。又、必要に応じて資料の提供や情報交換を行い、加盟教団等の主催事業に参加・協力した。

- 1) 「現代教化法研究協議会」（加盟教団教化部門代表者会議）の開催

加盟教団等に広く呼びかけ、これまでの教化活動を振り返りながら現代的課題に即した教化を推進していくべく会議を開催した。各宗派からの教化事例発表を受けて、少子高齢化や寺院の檀家離れ等、諸相のなかで現代に即した教化活動の方法について議論を深めた。

第1回：平成27年5月19日（火）

※会場＝臨済宗妙心寺派宗務本所

※報告＝臨済宗妙心寺派・浄土真宗本願寺派

第2回：平成28年1月21日（木）

※会場＝真言宗豊山派宗務所

※報告＝真言宗豊山派・孝道教団

2) 講師派遣

平成27年4月11日（土） 東京ビハーラがん患者・家族語らいの会（東京都）

平成27年7月22日（水） 日本仏教保育協会夏期保育講習会（東京都）

平成27年10月22日（木） 上智大学グリーンケア研究所公開講座（東京都）

平成27年11月5日（木） 臨済宗円覚寺派住職研修会（神奈川県）

平成28年1月12日（火） 浄土宗ともいき財団電話相談員研修会（東京都）

3) 加盟教団・関係諸団体主催式典等への参加及び協力

平成27年8月3日（月） 念法真教90周年式典（大阪府）

平成27年8月4日（火） 曹洞宗青少年書道展表彰式（東京都）

平成27年9月17日（木） 浅草寺貫主晋山式（東京都）

平成27年10月19日（月） 大阪青少年教化協議会創立50周年記念講演会・式典（大阪府）

平成27年10月26日（月） 黄檗宗大本山萬福寺管長晋山式（京都府）

平成27年10月27日（火） 総本山金峯山寺管長晋山式（奈良県）

平成27年12月2日（水） 日蓮宗大本山池上本門寺貫主退隠・晋山法燈継承式（東京都）

平成28年1月26日（火） 公益財団法人全日本仏教会新年懇親会（東京都）

平成28年2月8日（月） 公益社団法人全日本仏教婦人連盟修正会（東京都）

（4）教化活動広報事業

①インターネットによる情報収集及び発信

公式ホームページやブログ、フェイスブック等各種ソーシャルメディアを利用して青少年問題や活動者に関する情報を収集し、全青協の活動情報と合わせて情報の発信を行った。

②TV番組の企画協力

現代人に心の安らぎを提供することを目的に、関係テレビ局が企画制作を進める4K対応の新番組に対して情報提供等を行い制作へ向けての協力を行った。

③「Web現代名僧墨蹟展」の運営

伝統仏教各宗派管長、大本山貫首をはじめとする高僧・名僧、又、茶道家元ら文化人より寄せられた書画作品をホームページ上に掲載し、広く一般の人々が心の安らぎや豊かさを感得できるよう試みた。

2 公益活動推進事業

(1) てらネットEN関連事業の実施

①不登校・ひきこもり当事者の家族を対象とした親学セミナーの開催

「寺子屋ふぁみりあ～ひきこもり状態にある当事者の家族（親）のためのセミナー～」

全国に100万人いるともいわれるひきこもり当事者。全青協はこれまでひきこもりや不登校の問題に継続的に取り組んできたが、平成22年度からは、ひきこもり当事者の家族（親）に向けてのセミナーを実施している。セミナーでは現場経験が豊富で専門的な知識を有する講師を招いての講義、又、仏教的な体験を通じて精神的な安定が得られるように、読経や法話、慈悲の瞑想などを行っている。そして参加者同士によるグループトークの時間を設け、相互の心情に共感することで各自の孤立感を軽減している。今年度も引き続き、浄土真宗本願寺派「御同朋の社会をめざす運動」東京教区委員会との共催により平成27年5月より月1回の頻度で全11回開催した。

※会 場＝築地本願寺（東京都中央区）

※主 催＝本財団、浄土真宗本願寺派「御同朋の社会をめざす運動」東京教区委員会

第1回：平成27年5月7日（木）

○演 題「本当のしあわせ」

○講 師 柳川 眞理子（「自死・自殺に向き合う僧侶の会」元代表）

第2回：平成27年6月4日（木）

○演 題「実例から学ぶ長期ひきこもりからの脱出～その準備と実践～」

○講 師 石川 清（ひきこもり訪問サポート士）

第3回：平成27年7月2日（木）

○演 題「生きづらさを抱えた若者たち

～ひきこもりと自殺を急ぐ若者の心に通底するものについての臨床心理的考察～」

○講 師 高塚 雄介（明星大学人文学部心理学科教授）

第4回：平成27年8月6日（木）

○演 題「平和を願い 平和に生きる」

○講 師 和田 重良（NPO法人くだけけ会主宰）

第5回：平成27年9月3日（木）

○演 題「「ガシヨウ」という言葉から見えてくること」

○講 師 芝田 正順（浄土真宗本願寺派僧侶・教誨師）

第6回：平成27年10月1日（木）

○演 題「大人のひきこもり～当事者が望む新たな社会との関係性～」

○講 師 池上 正樹（ジャーナリスト）

第7回：平成27年11月5日（木）

○演 題「良いこと探しのコミュニケーションのススメ」

○講 師 田中 剛（精神保健福祉士）

第8回：平成27年12月3日（木）

○演 題「あの時は、それから、今は・・・」

○講 師 ひきこもり経験のある青年3名

第9回：平成27年1月8日（木）

○演 題「やさしさこそが大切で、かなしさこそが美しい」

○講 師 平野 俊興（浄土真宗本願寺派僧侶・教誨師）

第10回：平成28年2月4日（木）

○演 題「訪問看護の現場から見えてくるもの～ひきこもり当事者の心性を探る～」

○講 師 久保 毅（訪問看護師）

第11回：平成28年3月3日

○演 題「こころ安らかに一日を過ごすために」

○講 師 神 仁（当会主幹）・藤本 真教（浄土真宗本願寺派僧侶） ※以上、敬称略

②「寺子屋ふぁみりあ」のブログ及びホームページの運営

ひきこもり状態にある当事者の家族向けのセミナー「寺子屋ふぁみりあ」の講演内容等を広く一般に発信し、この問題についての啓発を図るとともに、参加者以外の同じ問題を抱える家族（親）が認識を共有し、問題解決・軽減の一助となることを期してホームページを運営した。

③就労支援プログラムの実施

「ご縁つながり隊」の運営

ひきこもりやニートの当事者が社会参加するための足がかりとして、就労支援活動を行った。

※日 時＝平成27年5月より週1日程度

※会 場＝全青協事務局

※内 容＝機関誌『ぴっぱら』の発送作業等の軽度な作業及びPCを使った事務作業をしながら、当事者が他の当事者や本財団職員と会話を交わすことで、コミュニケーション能力及び作業スキルの向上を目指した。

④相談窓口の設置・運営

1) 不登校やひきこもり、自死念慮等、青少年やその家族が抱える悩みに対応すべく、全青協内に電話相談窓口を開設し、当事者や家族に対してカウンセリングを行った。又、併せて電話相談窓口の開設を希望する青年僧をOJT形式の研修方法により育成した。

2) こころの相談室の運営

全青協内に不登校や非行、ひきこもり、精神疾患等の悩みを抱える当事者やその家族を対象とした来所相談室を開設。通常の電話相談では対応できない場合等に随時面接を行った。

3) 貧困母子家庭児童および自死遺児支援プログラムに関する調査

子どもを持つ家庭の貧困率上昇や近年の自殺者の増加傾向に伴い、貧困家庭児童及び自死遺児支援プログラムに関して継続的に調査を行った。特に被災地における現状の把握に務め、あおぞら奨学基金をはじめとする支援活動につなげた。又、不登校やひきこもり、自死念慮、児童虐待、DV、発達障害他、青少年や親等が直面する多様な問題に対して仏教情操教育をベースに当事者をサポートする「子ども家庭支援センター（仮称）」の開設に向けて調査を行った。

⑤浄土宗ともいき財団「心といのちの電話相談室」開設事業協力

浄土宗ともいき財団が「心といのちの電話相談室」を開設するにあたり、企画、運営、研修に関して協力を行

った。特に研修に関しては、講座の内容及び講師の選定、全青協スタッフの出講を含めて全面的に協力した。
※開設日時＝平成27年4月1日(月)～(毎週月曜日午前10時～午後4時、28年1月以降毎週月・金曜)
※会場＝東京都港区・明照会館内

⑥てらネットENパンフレット・小冊子の配布

てらネットENでは、ひきこもりの問題について正しい理解がなされて支援の輪が広がり、寺院等においては当事者や家族からの相談に対して適切な対応をするための一助となり得ることを期して、ひきこもりに関する基礎的な知識や対処法等を掲載した小冊子を、加盟教団・青少協・不登校ひきこもり支援団体等の要請に応じて配布した。

(2) 「ぴっぱら国際児童基金」の運営

公益社団法人全日本仏教婦人連盟と共同で、ワラナシ(ベナレス)等におけるストリートチルドレンやスラムにて暮らす子どもたちを対象に、チャイルドサポーター(里親)制度の運営(57人の支援)を行った。又、サルナートにおける無料診療所の運営、被虐待児童のシェルターの運営他、北部ラダックにおいても、教育を受けることのできない遊牧民の子どもたち等を対象に、教育・福祉・医療の面で支援を行った。又、今年度は、サルナート、ダルマチャクラ・スクールの図書室及びパソコンルームの増設に着手した。

3 臨床仏教研究所運営事業

今年度は、平成26年10月より開始した第2期臨床仏教師養成プログラムの座学(公開講座)課程に続き、4月よりワークショップ課程の講座を開催した。引き続き、ワークショップ課程を修了して考査を経た受講者が、臨床仏教師として活動するにあたり今後必要な方を臨床現場で学ぶOJT課程(On the Job Training、半年の期間内に100時間以上の実践研修)を予定している。又、平成27年3月に認定された6名の臨床仏教師に対しては、傾聴スキル向上とセルフケアを目的とした「フォローアップ研修」を実施した。

(1) 第2期臨床仏教師養成プログラム

—仏教者は現代社会のなかで人びとのこころにどのように寄り添うことができるのか—

平成25年度から現代社会の生老病死にまつわるさまざまな苦悩と向き合い、専門的な知識や実践経験をもとに行動する臨床仏教師を養成するプログラム《座学(公開講座)⇒ワークショップ⇒実践研修(OJT)》を実施している。

①ワークショップ課程

座学(公開講座)で学んだ生老病死の「今」を踏まえたうえで、現場において相手のこころに深く寄り添い、又、自分自身が燃え尽きてしまうことのないようにケアのあり方を理解し、活動のベースとなる技法を基礎から体系的に学ぶワークショップを、4月より隔週1回の頻度で全8回開催した。

※会場＝東京大学仏教青年会会館ホール

第1講：平成27年4月22日(水)

○演題 「仏教カウンセリング・傾聴法」

○講師 神 仁(臨床仏教研究所上席研究員)

第2講：平成27年5月13日(水)

○演題 「自己を知る・生と死のプロセスワーク」

○講師 神 仁(臨床仏教研究所上席研究員)

第3講：平成27年5月27日（水）

○演 題 「内観法」

○講 師 千石 真理（心身めざめ内観センター主宰）

第4講：平成27年6月10日（水）

○演 題 苦集滅道（四諦）ワークショップ

○講 師 ジョナサン・ワッツ／吉水 岳彦（臨床仏教研究所研究員）

第5講：平成27年6月24日（水）

○演 題 インターフェイス・チャプレンシー

○講 師 高木 慶子（上智大学グリーンフケア研究所特任所長）

第6講：平成27年7月8日（水）

○演 題 グリーンフケア

○講 師 大河内 大博（上智大学グリーンフケア研究所研究員）

第7講：平成27年7月22日（水）

○演 題 セルフケア／チームケア

○講 師 大河内 大博（上智大学グリーンフケア研究所研究員）

第8講：平成27年8月5日（水）

○演 題 ターミナルケア

○講 師 千石 真理（心身めざめ内観センター主宰）

第9講：平成27年8月19日（水）

○演 題 コミュニケーション・トレーニング&ロールプレイング①

○講 師 神 仁（臨床仏教研究所上席研究員）

第10講：平成27年9月2日（水）

○演 題 トラウマケア&ロールプレイング②

○講 師 神 仁（臨床仏教研究所上席研究員） ※以上、敬称略

②第1期臨床仏教師認定式並びに記念講演会の開催

平成27年3月に認定された6名の臨床仏教師の認定式並びに台湾における臨床仏教宗教師の育成と活躍について知見を深め、日本での臨床仏教師のあり方をテーマとした記念講演会を開催した。

※日 時＝平成27年4月21日（火）

※会 場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※講 師＝陳 榮基氏（国立台湾大学附属病院名誉教授・仏教華蓮基金理事長）

（2）臨床仏教師フォローアップ研修の開催

第1回：平成27年10月9日（金）

第2回：平成28年3月16日（水）

※会 場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※講 師＝大河内 大博（臨床仏教研究所専門委員・上智大学グリーンフケア研究所研究員）

神 仁（臨床仏教研究所上席研究員）

（3）臨床仏教師（仏教チャプレン）資格認定制度に関する調査

今年度も引き続き、教育・福祉・医療等の臨床現場において、仏教精神に基づいた心理的・精神的ケアを行うことのできる臨床仏教師の資格認定制度運営に関する国内外での調査・準備を進めた。特に仏教福祉系の施設や団体、病院等を訪問し、情報交換するとともに、臨床仏教師の活動の場を開拓することに努めた。

平成27年4月20日（月）佼成病院（東京都）

平成27年4月20日（月）浅草寺病院（東京都）

平成27年6月2日（火）笑顔のおうちクリニック（埼玉県）

平成27年7月11日（土）～18日（土）ジョーンズ・ホプキンス大学病院、ホリスティック・ライフ・ファンデーション、プリンストン大学、ニューヨーク市警察、New York Zen Center for Contemplative Care 他

平成27年8月9日（日）普門院診療所（栃木県）

平成27年9月18日（金）普門院診療所（栃木県）

平成27年10月6日（火）～7日（水）山形三友堂病院（山形県）

平成27年11月9日（月）小澤医院（神奈川県）

平成27年11月22日（日）～24日（火）福島県立会津医療センター、小川医院（福島県）

平成28年2月15日（月）名古屋掖済会病院（愛知県）

平成28年2月15日（月）大雄会病院（愛知県）

（4）臨床仏教研究所 公式ホームページ等による情報発信

臨床仏教研究所のホームページ、ブログ・フェイスブック等各種ソーシャルメディアと連動して講座内容、調査報告、プログラム運営等に関して情報の発信を行った。

4 出版事業

（1）機関誌『びっばら』の発行状況

①月別発行部数

| 月 | 部数 | 月 | 部数 | 月 | 部数 | 月 | 部数 | 月 | 部数 | 月 | 部数 | 平均発行部数 |
|-----|-------|-----|-------|------|-------|-------|-------|-----|-------|-----|-------|--------|
| 5-6 | 5,800 | 7-8 | 9,500 | 9-10 | 6,300 | 11-12 | 5,700 | 1-2 | 6,100 | 3-4 | 6,300 | 6,620部 |

②『びっばら』「特集」テーマ一覧

| 月 | テ ー マ |
|-------|--|
| 5-6 | こころ安らぐ社会のために —— 「臨床仏教」の意義とケア活動 |
| 7-8 | 子どもたちを戦場に送らないために |
| 9-10 | 棄てられたいのちを救え！ —— 熊本市動物愛護センター「殺処分0」の取り組み |
| 11-12 | 本当はもっとつながりたい —— 「ひきこもり」支援の最前線から |
| 1-2 | 食べることで、人はつながる —— 子どもの貧困に挑む「子ども食堂」 |
| 3-4 | 東日本大震災から5年 —— 子どもたちの支援のあり方を考える |

(2) 書籍・教材発行と調査及び研究、広報

青少幼年向けの各種教材を発行。花まつり用ぬりえ、シール、風船、ポスター及び甘茶クッキー等を頒布した。

①教材等の製作

A) 甘茶クッキー

甘茶クッキーを「おかし屋ぱれっと」（障がい者の自立支援を行うNPO法人）と共同開発し頒布した。

②書籍・教材の調査及び研究

今後の出版事業につないでいくために、青少年関係の出版物並びに教材等を調査・研究した。

③出版物・教材の広報活動

出版物は会員以外への販路を開拓するべく、頒布活動に力を入れ、教材は成道会、お盆、花まつりをはじめとして、あらゆる機会を利用して、DM、チラシ等で広報した。

II 表彰事業（公益目的事業2）

青少幼年の健全育成に尽力し、社会の情操教育振興に功績のあった個人及び団体を表彰する事業

(1) 『正力松太郎賞』の実施

仏教精神に基づき、長年にわたって青少幼年の宗教情操の育成に尽力して顕著な実績をあげ、今後も活躍が期待される個人・団体を表彰した。

①「第39回正力松太郎賞」の表彰

※受賞者

(本賞)

○観乗寺土曜会 影絵劇団もぐら座

〔代表・藤田 英道氏／浄土真宗本願寺派観乗寺住職／熊本県上天草市〕

○楠山 泰道氏

〔日蓮宗大明寺住職／神奈川県横須賀市〕

※後援＝読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社、株式会社よみうりランド、株式会社報知新聞社

※表彰式＝平成27年6月1日（月）

※会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

②「第40回正力松太郎賞」の公募と受賞者の決定

平成27年9月公募開始、同年12月15日締め切り

※選考会日時＝平成28年3月29日（火）

※選考会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※受賞者

(本賞)

○五位堂安養日曜学校

〔代表・中村 勝胤氏／浄土宗寶樹寺住職／奈良県香芝市〕

○袴田 俊英氏

〔曹洞宗月宗寺住職／秋田県藤里町〕

(青年奨励賞)

○久間 泰弘氏

〔曹洞宗龍徳寺住職／福島県伊達市〕

(児童教化功労賞)

○薬師寺青少年の為の寺子屋

○金峯山青年僧の会 三日ぼうず体験

○総本山知恩院おてつぎ運動本部 サラナ親子教室

○一絃須磨琴保存会

○曹洞宗青少年書道展

○龍谷大学学友会宗教局

※後 援＝読売新聞社、日本テレビ放送網株式会社、株式会社よみうりランド

※表彰式＝平成28年5月31日（火）

※会 場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

(2) 優秀表彰の実施

情操教育を目的とした書道・絵画等を通じ優秀な成績をおさめた児童・生徒への表彰、又、青少幼年の健全育成に貢献した個人及び団体を表彰した。

- ・曹洞宗主催「第49回青少年書道展」を後援、全青協賞を授与。
- ・大正大学書道研究部主催「第64回全国書道展」を後援、全青協賞を授与。
- ・炎天寺一茶まつり委員会主催「平成27年度全国小中学生俳句大会」を後援、全青協賞を授与。

Ⅲ 災害支援事業（公益目的事業3）

国内外の自然災害に際する緊急支援及び復興支援を行う事業

(1) 東日本大震災復興支援事業

仙台災害支援センター等を拠点として、被災地の方々、特に子どもたちや高齢者の方々のニーズに応えるべく、精神的なケアにつながる支援を主とした活動を行った。

①高齢者の孤独死・自死防止活動

被災地の仮設住宅を定期的に巡回しながら、集会所や談話室でハーブティーサロンや生け花会などを開催、又スタッフによる歌のコンサート、バルーンアート等の催し物を行い、孤立しがちな高齢者の心身のケアに継続的に取り組んだ。

②被災児童を対象とするトラウマケア活動

仮設住宅や学童保育会場等で子ども会を開催しながら、被災児童の心の状態の把握に努め、遊びやレクリエーションを通じたトラウマケア活動に取り組んだ。

③「あおぞら奨学基金」の運営

平成24年度に一般財団法人杉浦ブラムチャリヤ、公益社団法人全日本仏教婦人連盟と協働して「あおぞら奨学基金」を設立。東日本大震災で就学困難になった高校生のための給付型奨学金支給事業を基金事務局とし

て運営を行った。今年度は宮城県石巻市の高校生42名を対象に、月々1万円の奨学金を給付した。

(2) 国内外緊急支援事業

①広島土砂災害緊急支援事業

平成26年8月に発生した土砂災害における被災者支援として、被災児童のトラウマケアを中心としたこころのケアスタッフを養成し、ひろしまチャイルドラインと協働して広島県内の子どもたちを対象としたフリーダイヤルによるこころの電話相談窓口を平成26年度に開設し、今年度も引き続きカウンセリングを行った。又、平成27年5月・11月に宮島てらこや主催の子ども会キャンプに協力した。

②ネパール大地震子ども支援事業

平成27年4月に発生したネパール大地震における被災者支援として、チャイルドライン・ネパールと協働しこころのケアを主とした活動を行った。又、首都カトマンズにある小児専門病院（シッディ・メモリアルファンデーション・ホスピタル）の要請を受けて、医療器材の供与をはじめとする子どもたちの医療支援を行った。

IV 管理

(1) 組織の充実・拡充

理事会及び評議員会、青少協代表者会議の席上、会員拡充への協力を依頼した。又、各宗派の研修会等において全青協の資料を配布し入会案内を行った。会員数は平成28年3月末日現在、858名。内訳は「会員」355名、「活動会員」266名、「賛助会員」211名、「特別賛助会員」26名。